胸を打つ幕末志士の敬慕
詩歌に現れた大楠公 ㊥

維新の志士たちが楠公の誠忠を慕ひしたことはいふまでもなく、嗚楠の詩歌は盡きることを知らないほどである。吉田松陰は楠公墓前に「七度も生きかへりつゝ夷をぞはらはむ心我忘れめや」と詠嘆に感懐を新たにしたが湊川に詣でては「かしこくも君が御爲に身ゆとては消えずこの身を何か惜はむ」と詠じ、"七生説"を綴しては「二西郷、不忠不孝の人となる——然りとも、このむすびに楠公諸人とこの理を説しうす——必ずや後の人をして乃余が觀て興起せしめ七生に至りてしかる後可となさんのみ」萌芽れ哉に作り七生説を作る"と楠公精神の下にのみ國民の道があることを縦へてゐる。

……×……

坂本龍馬も湊川に詣で「月と日の昔をしのぶみなと川ながれてきよき楠の下水」と詠じてゐる。志士と關係の深い野村望東尼は「かしこしとぬかづくうちもわが袖の涙がは水せきぞかねつる」の歌を残した。筑前の志士平野國臣また義擧に敗れ囚として湊川を過ぐる時に「なき魂もあはれと思へ湊川潮き流れの末を汲む身は」と詠へてゐる。楠公精神の一筋につながらんとする思ひは痛切に胸を打つではないか。

戰爭と氣象の變化

戰爭が氣象異變を起すとよくいはれる。比較的最近の大きい例では、昭和十六年秋頃ドーヴァ海峽に面する英國陣地一帶は數日間思ひがけない豪雨に襲はれ、英軍は數も少からぬ損害を受けたが、それは獨軍の長距離砲の連續砲撃が原因で氣象の變化をきたしたのだといはれ、戰爭と氣象の關係に一つの話題を提供した。果して戰爭は氣象異變の原因となるか？ 更に作戰に及ぼす氣象の影響は？ 等々"戰爭と氣象"を主題にして概説してみよう。

英を襲った猛雷雨
獨軍長距離砲連射の結果？
天候異變の起る諸原因

まづ雷雨について——雷雨は大体濕地、山地などが特に強く熱せられたために起る上昇氣流に因る熱雷、激しい低氣壓による

上昇氣流に

渦く渦雷、寒暖氣流の衝突によつて起る界雷、火山が爆發するとその噴煙中に起る火山雷に分けられる。以上四つの原因から檢討すれば獨軍の長距離砲の猛射撃によつて異なつた氣流が英海峽の冷い氣塊の上にのし上つて雷雨が生じたとも考へられないことはないが、氣象的には未だ十分明らかなものではない。一体氣象變化の根本原因は太陽の活動の盛衰にある。即ち太陽の熱が多くなれば地球の氣温が昇る。然し氣象はその土地の特殊な原因も影響するから

太陽の熱度

が少い年でも氣温の高いこともある。然るに火山などの大爆發があると氣温が下り、二、三年健調を來すことも稀くない。それは火山灰が成層圏まで吹き上げられると氣流によつて地球を取り卷き、大量の火山灰せ著しく太陽の熱を吸收するため氣温が下るのであつて、時には世界中の氣象に大變化を及ぼす。天明三年の大飢饉はその年の七月七日に淺間山が大爆發を起したためであり、全世界はその後三年間氣温が

極度に低下

していはゆる夏のない年が續いた。また大正二年東北地方の凶作は前年六月アラスカカタマイ火山の大爆發が原因してゐた。しかし我が科學陣必死の研究は今では火山の爆發を十中八、九まで豫知し、これに因る災害並に凶作に對する避難對策を備へるまでに進められてゐるからこの点の心配は無用である。

天氣晴朗浪高し
◇…日本海々戰大勝利の前兆

去る三月十八日イタリアのヴエスヴイアス火山は猛烈な噴火を始め十九日には三條の黑煙を噴き上げると共に大熔岩流を押し出し、更に二十一日に至つてこれが

北麓に流下

したため三ケ村を飲み込み、駐屯の反樞軸軍は大混亂に陷つたが、噴火に限らず氣象が軍事的に多大な影響を及ぼした例は少くない。かの日本海々戰の劈頭、東郷司令長官が發した第一報に「本日天氣晴朗ナレドモ浪高シ」とあつたため大本營では濤が高ければ必ず勝つとまづ幸先を慶んだといはれてゐるが、これは當時の我が軍艦の多くは英國式で艦体が吃水線上に高かつたので

砲撃の的に

なり易い缺陷があつた。それで濤が高ければこれを補ふと共にこちらからの砲撃條件を有利ならしめると直感したからである。

昭和の神風

支那事變においてわが軍が風雨を利して渡洋爆撃を敢行、續いて行つた杭州灣上陸等で南京陷落を容易ならしめたのは有名なこと、これは多年 地形調査に加へて 氣象研究を十二分に行つてゐた結果であり、更に感激深い思ひ出は昭和十六年十二月八日の大戰果發表を前にして大本營から發表せられたあの報道——「數日前からハワイ方面は大暴風雨であつて敵もよもや來まいと油斷してゐたやうである、この暴風雨こそわれにとつては天佑であり、神助であつたのである」昭和の神風といはれるあの大暴風雨によつて作戰を容易ならしめ得たのは長年月に亘る尊い犠牲の上に活かされた人の力をきはめ盡されて遂に天の利を導き、その綜合によつて輝かしく現れた成果といへよう。

雲上を翔る新司偵㊤と昭和四年六月北海道渡島駒ケ岳爆發の際の猛煙

軍事講座

北極との距離測定
天測航法の知識 ㊤

星は闇夜の、暗い戰場で自分の位置を測定したり長距離攻撃に向ふ飛行機が密雲の上を正確に目的地に向つたり、軍艦が目標物のない洋上を正しい針路で航行したりする上に利用される。

天体の位置を求め、または位置の線を利用しながら航海空するのが天測航法で、その一番簡單なものは北極星を天の北極と假定し、これを方位の北として水平線から北極星までの高度を求め、この高度を地球上にある測者の緯度と同樣に考へる方法で、つまり北極星を見る角度によつて天の北極からの距離を知るのである。

なぜ星の見える角度を測ると距離が判るか——假に星は地表に直角に立てられた長い竿の先に突きさゝつてゐると考へる、この竿の先から紐をピンと引張り、これを持つて歩くと竿を中心とした円が描ける。そのときの紐と地面のなす角が七十度だつたとすれば、この円周上の如何なる點からでも七十度であるが、地球上の他の場所からは絶對に七十度ではあり得ない。紐を長くすれば円は大きくなり、その角度は小さくなる。だから角度によつて頭に星をつけた竿からの距離が得られるのである。

以上によつて明かなやうに、天測航法でいふ星からの距離とは本當の星から非常に遠い距離のことではなく、星の高度に關係なく星の眞下即ち星を九十度の角度に見得る點からの距離のことであつて、このやうに星は全部地球と同じ大きさで、同じ軸を中心とする球上にあるものと便宜上假定した場合、この球を天球といふ。

新映畫

心は飛ぶ海の決戰場へ！
『水兵さん』生ひ立ちの巻

次代の日本を擔ふ少年の心は海へ、海の決戰場へとはやり立つ。森村新八もその少年の一人であつた。近所に海兵團で志願兵教育をうけもつてゐる山口海軍中尉とその奥さんと山口老人が住んでゐた。陸軍びいきの新八の父彰助は口惜しがりながら日頃仲の惡い山口老人へ相談をもちかけた。新八の學級からは間島、石黑、新八の三人が海軍を志願したが不幸石黑は[illegible]で落ちてしまつた。「また來年がある」さういつて新八は石黑を力づけた。新八の海兵團生活が始まつた。偶然新八の所屬したのが山口中尉の分隊であつた。生れて初めて親の膝下を離れて他人ばかりの世界で暮すことになつた新八にとつて、唯一の顔見知りである山口中尉——だがその分隊長は、兵舍ではもう隣のおぢさんではなかつた。自分にだけ特別の心やりを期待する新八のアテは外れて、嚴格そのものゝ分隊長であつた。そのうちに秘められた兵隊への優しい父親のやうな愛情を知るまでには相當の時間が必要だつた。

【寫眞は星野和正の新八と教班長の小沢榮太郎】

原作（津村敏行）脚本（柳川新二）演出（原 研吉）森村新八（星野和正）その父（河村黎吉）山口分隊長その母（飯田蝶子）その妻（水戸光子）その父（齋藤達雄）石黑規矢（小泉忠）海軍省後援—【松竹作品】—

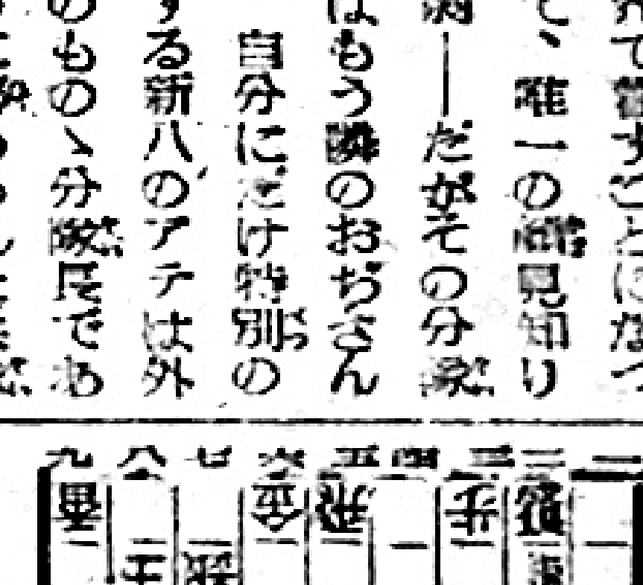
將棋

第十一局

八段 大野源一

先 八段 塚田正夫

持駒 桂歩三



圖は[illegible]五六歩迄

▲五八金　△八六歩　▲同　桂

△八五銀　▲五三角成　△同　飛

▲六四歩　△七三金　▲八五香

△八七六桂

消費時間 ▲三時間四十九分 △四時間三十五分

觀戰記 七段 大和久彪

大野八段が決死の突撃、五六歩の突捨てから六五歩には物凄い迫力がある。肉を斬らせて骨を断つの戰法で背後の五一飛、八四桂等の活用を狙つてゐる。されば優勢なりとはいへ塚田八段も油斷は出來ない、捨身の戰法ほど恐ろしいものはないから……沈思四分敵の鋒を軽く受け止める五八桂の自重。

大野八段の六六歩の取込みからは角の交換、七六桂の跳躍、盤上荒れて忽ち終盤寄せの狀態となる。

五六七段 選抜聯珠戰

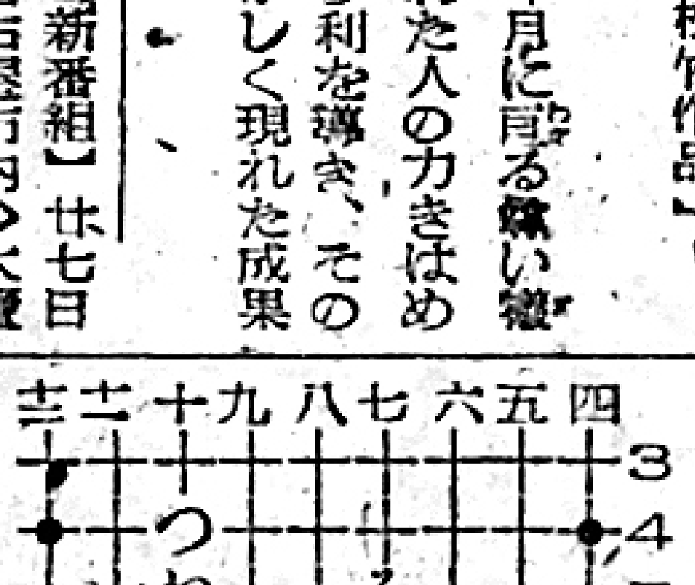
第七局

先番 七段 深井一冠

六段 萩原素石

觀戰評 ④

名人 高木樂山



（白十八より廿四まで）黑十五は白十四の打つべき（十七）の點に打つ處だ。これでは白十四の四追に響いてゐない。

白十六は、實に意外だつた。萩原六段にしてこの讀み損じを見る。對局を徹に技術的にのみ斷じられないのはかうしたことがあるからだ。

白十六より（十七、そ、二四、つ、十八、ね）の四追なのだ。これは白十四の含みなので黑十五で當然防ぐべきだつたのを深井七段が悠々として黑の十五を下したので手拍子に誘はれての萩原六段の失着と類へる。

かうなると却つてこの黑十五が良かつたことになる。解らぬものだ。

白十八、二十七、二二はこの際打ちたくなかつたであらうが、この場合やむを得ぬ。

【映畫新番組】廿七日から名古屋市内◇大寶今池、京映、朝日、日之出、八幡「激流」（日映）◇名寶、八重垣、内田橋、豐富、豐田、築地松竹「血の瓜文字」（大映）

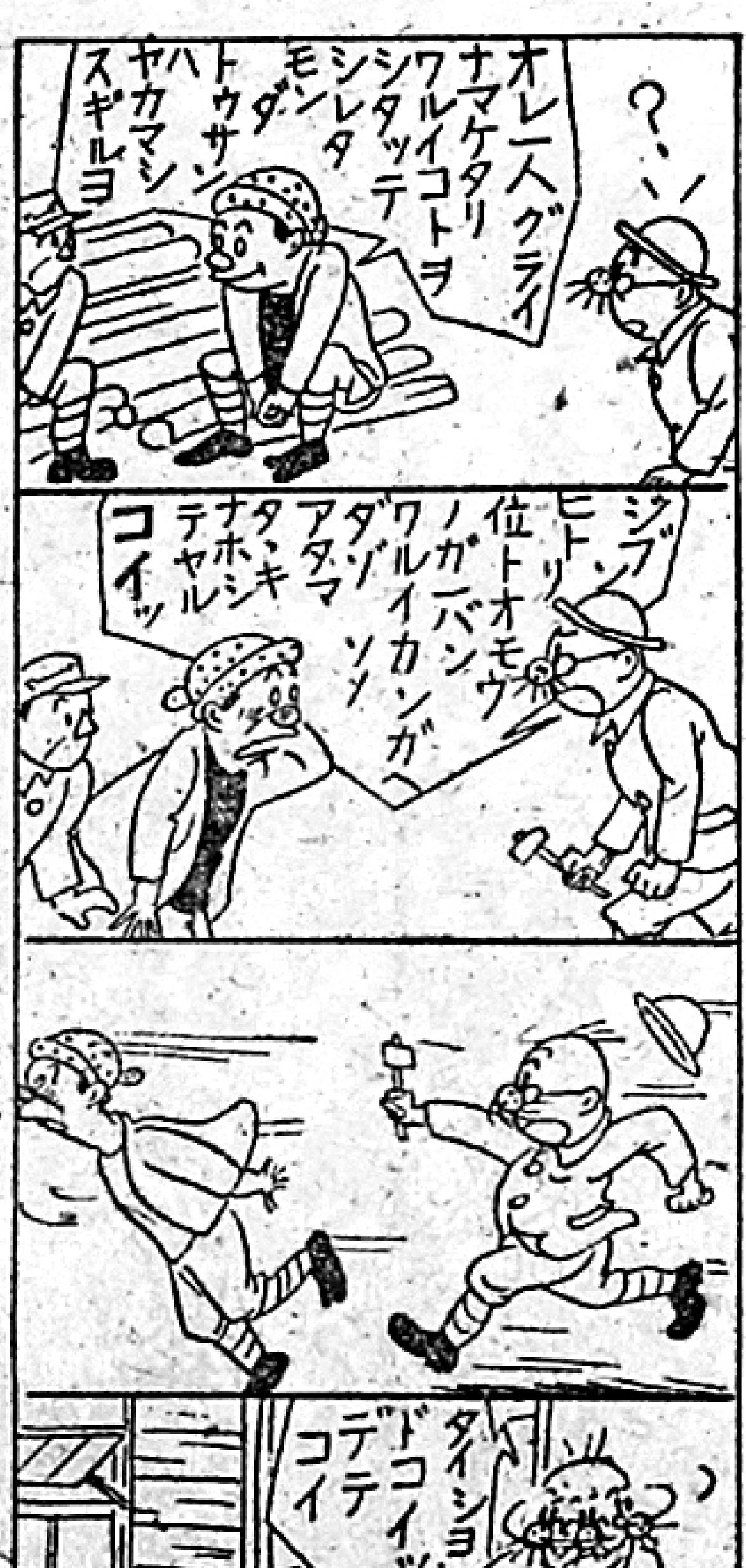
國史の窓

尾張義直

徳川氏の採つた新しい封建制で最も注意すべきは親藩、譜代を要地に封じたことであるが、その中心はいふまでもなく尾張、紀伊、水戸のいはゆる「御三家」——それぞれ家康の男子が配置されたが、尾張藩の始祖義直は慶長十二年閏四月二十六日、清洲に封ぜられ美濃、信濃を併せて六十一万九千五百石を領した。名古屋城を築いて移つたのはそれより三年後のことであるが、最近郷土教學の傳統精神が再認識されてゐる折から義直の勤皇の事蹟等が改めて見直されてゐるのは郷土の人々にとつては心強いことである。

レンバンマンガ 決戰組

麻生豊

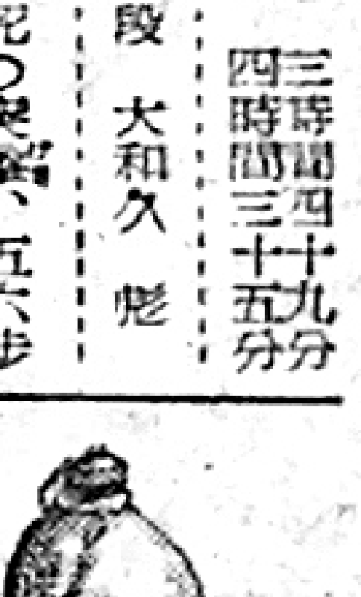


?
オレ一人グライナマケタリワルイコトヲシタツテシレタモンダ
トウサンハヤカマシスギルヨ
ジブンヒトリ位トオモウノガバンジワルイカンガヘダゾ
アタマタヽキナホシテヤル
コイッ
タイショウドコイッタ
デテコイ

戰友記【56】

尾崎士郎

古田十郎畫



水筒（三）

こいつ無茶なことをすると思つたので、

「おい、貝坂君！」

と横合ひから聲をつきだした。

「一体どうしたんだい？」

「先生ですか？」

貝坂は髭で埋つた顔に和やかな微笑を湛へながら赤堀の方を振りかへつた。

「こりや、どえらいとこを見つけられましたな」

彼は痩せた若い女の首すぢをおさへ、チヤキチヤキと鋏をうごかしながら言つた。

「どうも様子がへんだと思つたら、此處にゐる女の恰好をしたやつは、ひとり殘らず男なんですよ、——男のくせして女の眞似をするとは情ないぢやありませんか、それで今夜はこいつたちをひとり殘らず男にしてやらうと思ひましてね」

「へえ、——さうかね、これがみんな男だつたのかい、だけど、どうして男だといふことがわかつたのかな？」

「そや、注意すればわかりますさかいに」

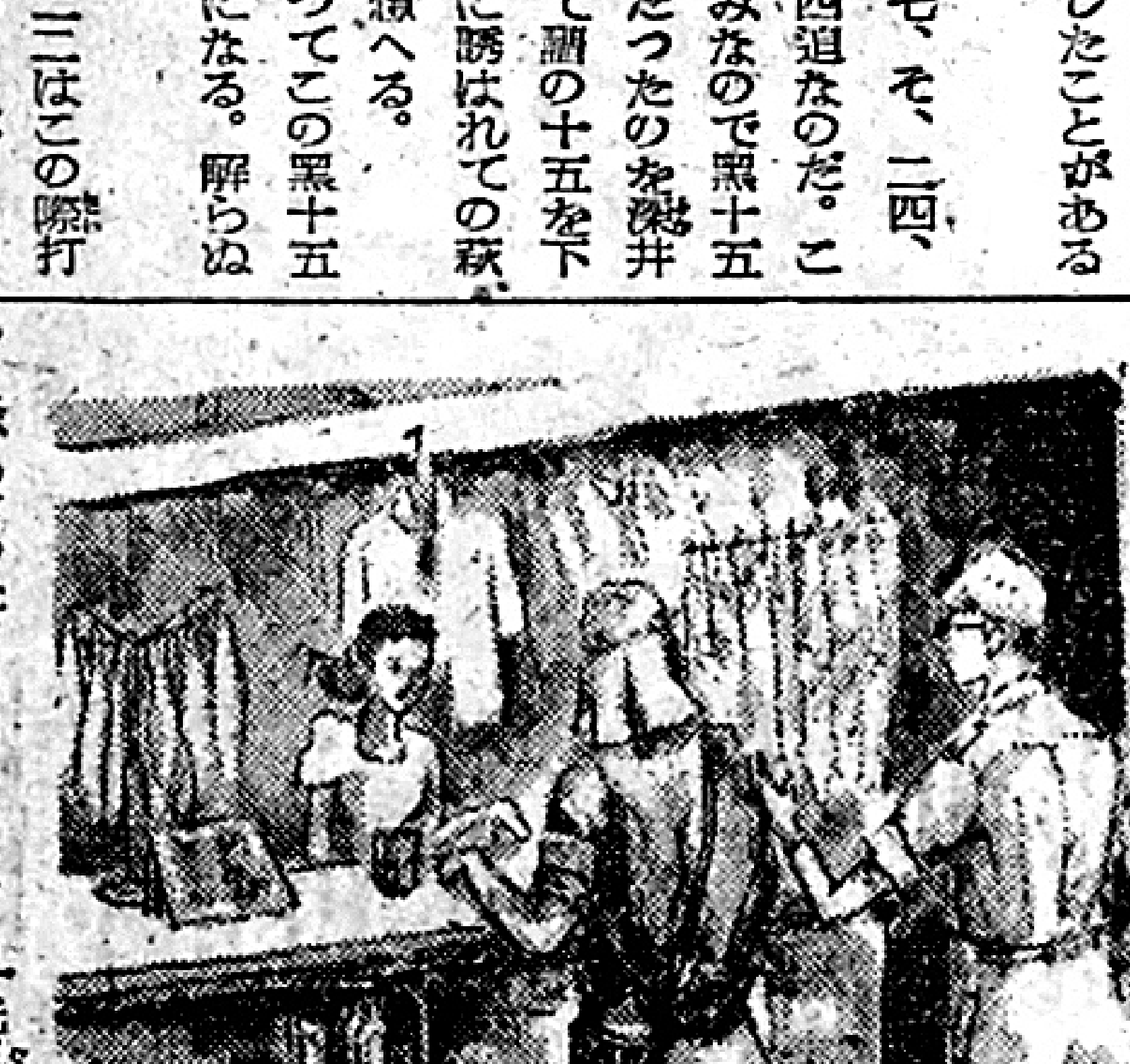
貝坂は急に嚴肅な表情をして答へた。赤堀もフイリピンに「ビナバイ」といふ女裝男子のゐるといふことを聽いてゐたが、これらの男たちが貝坂上等兵によつて本性を看破されたことはあまりにも意外であつた。

「しかし、君、それぞれの土地には獨特の因習や風俗といふものがあるからな、そいつを根こそぎ切り拂つてしまふわけにもゆかんよ」

「そや、わかつてますけどな、若い男のくせして、こんな恰好してゐるやつを見ると、他人事のやうに思はれへんでな」

「まア、どつちにしても、あまり手荒いことはしない方がいいよ」

赤堀小助はさう言ひ殘してホテルの五階にある自分の部屋へかへつたが、あくる朝になると診察に來た軍医から毎日一定の時間に外出することを許されたので、午後から映畫館の視察にゆく岩本とつれだつてエスコルタ街まで自動車を走らせ、昨日から店を開いたばかりの「マニラ・バザー」に入ると玩具の陳列棚のある賣店の前に一人の兵隊が立つて、しきりに賣子と話をしてゐる姿が見えた。



「あそこにゐるのは隊の將軍だぜ」

岩本がにやりと笑つたので、よく見るとたしかに貝坂上等兵である。——赤堀はうしろから近づいて、

「よう」

と、聲をかけた。

勤勞俳壇

加藤霞村選

—囀—

囀りや貴船の巫女に逢ひしのみ　日本陶器　小栗牧水
囀りや牧の少年水汲みに　中部日本　加藤えみ子
囀りや多度山道の一すぢに　名古屋　岡本とし江
囀れるさなかの駅にとまりけり　日本陶器　白井八重子
盲ひなる妹囀りをふりあふぎ